

定年延長は本人の選択制

ACKGグループ（ACKG）は、昨年基幹会社であるオリエンタルコンサルタンツの海外事業本部を分社化し、オリエンタルコンサルタンツグループとして海外展開を進めている。同社は、雇用制度や就業制度を海外業務に適した

ACKG

雇用

形にする取り組みを進めており、さまざまな施策を実施している。

その1つが定年延長だ。一定の基準のもと、定年を本人の意思によって65歳まで選択延長できる制度を導入した。海外のコンサルタント業務は、入札提案書における専門家の評価のウエイトが高く、経験年数が長いほど高い評価を受ける場合が多い。このため同社の社員の中では、70歳を超えてもプロジェクトに参加している者が数名いるとい

う。同様に博士号の資格を持つている人材が入っていると入札提案書の評価が上がることから、取得のための補助も行っている。

また、国際協力機構（JICA）の調査業務は、現地調査と国内作業の二本立てになっている。国内作業の場合、遠隔地に居住する社員の便も考慮して、在宅勤務制度を試験的に開始した。このほか、海外で勤務している社員の福利厚生の一環として、扶養家族に対する海外教育費の手当

や単身出張者に対して、家族呼び寄せ制度も行っている。

人材募集は、外国人留学生を積極的に採用していることも特徴的だ。業務能力を重視し、日本語を話せることを条件としていないため、海外業務に不可欠な英語能力がアドバンテージになっているようだ。本社雇用の外国人は約1割（30数人）を占め、日本人社員との業務コミュニケーションは英語で行っている。社内環境のグローバル化に役立つ面もあるという。